

## JADIE第2回全国大会の報告 — 情報教育の新たな構築を目指して —

鳥取大学 総合メディア基盤センター長 山岸 正明

### 1. はじめに

日本情報教育開発協議会（JADIE）は、高等学校教科「情報」が設置されたことを契機に、わが国の情報教育の推進と充実した研究活動の環境整備を図るために、平成16年6月に設立された団体です。

第2回全国大会が平成18年6月24日（土）、「情報教育の新たな構築をめざして」をテーマに、鳥取大学で開催されました。その報告をいたします。

今大会では、午前中は一般発表、午後は講演会という形態をとりました。午前中の一般発表は40件、全国から集まった情報教育の実践者による発表等があり、それに加え協賛企業5社の展示がありました。

第1回全国大会と同じように、遠隔会場も設けました。北は北海道大学情報基盤センター、南は福岡県田川市立金川中学校を結んだ三元中継で実施し、北海道大学会場と金川中学校会場からも発表を行いました。

3会場を合わせた参加者は155名でした。参加者の内訳を図1に示します。

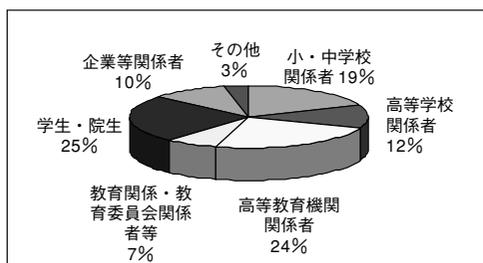


図1 参加者の内訳

### 2. 分科会の紹介

「新しい課題と人材育成」分科会では、8件の発表が行われました。鳥取会場からは、米国と英国の情報教育の調査、携帯電話に関する講演活動を通して通信事業者の立場から情報教育推進のあり方の提言などの報告がありました。遠隔会場の1つである金川中学校からは、中学校と小学校の実践報告が、もう1つの遠隔会場である北海道大学からは、高等学校普通教科「情報」を履修した新入生に対する状況調査と、大学における情報教育の取り組みについての報告がありました。

「小中学校」分科会では、7件の発表が行われました（写真1）。文部科学省研究開発指定校の小中学校における情報教育カリキュラム開発と評価の取り組み、小学校における教科の連携をふまえた情報教育の年間指導計画、不登校児童・生徒に対して学習指導を行う適応指導教室における情報教育カリキュラムの開発、小学校における情報モラル指導の実践などの報告がありました。

「高等学校（1）」分科会では、8件の発表が行われました（写真2）。エアコンの稼働を環境問題に関連させて指導するための構内LANの活用、



写真1 小中学校分科会の発表



写真2 高等学校 (1) 分科会の発表

会議等のペーパーレス化や成績処理システム導入の実践、パズルを解く面白さから生徒に興味を持たせてプログラミングの面白さへ転化していく実践、二足歩行ロボットを情報の科学的な理解とアルゴリズムの学習・問題解決に役立てる教材としての利用、商店街活性化プロジェクトを高大で推進することによる情報教育の新しい姿の模索、高等学校教員を対象に実施したアンケートに基づく高等学校における情報教育と教員の負担の現状、情報Cで情報表現の評価方法の実践、情報Bでプログラミングを通して問題を解決させる実践、などの報告がありました。

「高等学校(2)」分科会では、8件の発表が行われました。大学入試における「情報」の導入とそれに関連した高等学校教員の意識調査、プレゼンテーション・スライド作成におけるガイドラインの提案、高校生のための情報倫理e-Learning教材の紹介、初等中等教育における情報教育の推進に向けての提言内容とそれに関する高等学校の情報科教員のアンケート調査、飛行船制御プログラムを用いた情報の科学的な理解と定着を目指した実践、中等教育における多言語環境でのe-Learningシステムの実践、拡張ライフゲームのグラフ文法による記述を情報教育に利用する提案、WebCast型e-Learningによるプログラミング教育のためのコンテンツ開発とその利点と特徴、などの報告がありました。

「高等教育機関」分科会では、9件の発表が行われました。高等学校で「情報A」を履修した大学入学生に対する情報リテラシーや学習内容の習得度調査、実践時学習成果の共有による協調的e-Learningの実践、遠隔教育における各種映像伝送方式についての実践例、Webを利用して遠隔学

習支援を行う取り組み、医学共通試験に準じたコンピュータ・テスト・システムの開発、課題収集と評価の機能に特化したシステムの提案、携帯電話のメール機能を利用した講義出席や、授業の到達度を確認する形成的評価テストによる学習動機付けを高めるシステムの開発、などの報告がありました。

### 3. 講演会の紹介

講演に先立ち、開催大学の鳥取大学学長 能勢隆之先生の祝辞があり、ICTを活用した教育にも様々な問題があり、情報教育の研究に取り組んでいる日本情報教育開発協議会に期待したいと述べられました。

#### (1) 「情報教育の課題と日本情報教育開発協議会の活動」

電気通信大学大学院教授 岡本敏雄先生 (JADIE会長) JADIEでは、次のような骨太の情報教育を掲げている。

- 1) 内容を精査した割り切った教育内容
  - 2) 内容を持ったコンテンツの作成
  - 3) 国際競争力の視野に立った教育
  - 4) Emotion Aspect (自己責任, リーダーシップ, 行動基準の確立)
  - 5) e-Learning, CSCLを利用した学習の場の提供
- 大学入試に情報教育が入れば形式的には骨太になるといえるが、中身の充実がなければ真の骨太にはなりえない。教員養成と教員研修についても重要な問題であり、JADIEでボトムアップ的に議論し、各方面に各種の提言を積極的に行いたい。皆様には是非JADIEへご参加いただきたいと締めくくられました。

#### (2) 「IT新改革戦略の実現に向けて」

文部科学省初等中等教育局参事官 嶋貫和男先生 教育の情報化では、情報活用能力の育成(情報教育)と教科指導におけるICT活用が重要であると述べられた後、18年度から始まる次期IT戦略について説明があった。そして、教育の情報化に関する実態調査結果を示された。教育の情報化をさらに加速させるため、平成17年12月から文部科学



写真3 嶋貴和男先生の講演



写真4 都倉信樹先生の講演（スクリーン画面の左上の写真は北海道大学会場と福岡金川中学校会場）

省が「e-Japan戦略の目標達成に向けて 教育の情報化の推進に向けてのアクションプラン」を進めている。

- 1) 大臣を先頭とした地方公共団体への直接の働きかけ
  - 2) 教育の情報化強化月間
  - 3) ICT利活用促進キャンペーン
  - 4) 教員のための情報化推進事例集の作成・配布などを行い、教育現場における情報化の推進に力を入れている。また、「IT新改革戦略」上の「教育の情報化」に関する目標を掲げて、学校教育の情報化の一層の推進を行っている。情報化の影の部分への対応として、情報モラル教育の推進にも力を入れてゆく、と述べられた（写真3）
- (3)「情報通信技術の展望と教育への提言」

鳥取環境大学教授 都倉信樹先生

横軸が時間だけのグラフを示し、縦軸としていろいろなものを当てはめると、いろいろな解釈ができる。人間の知識獲得とコンピュータの発達と捉えると、人間はいつかはコンピュータに追い抜かれる。そのとき人間はどうすればよいかという問いかけが行われた。これらをもとに、どういつ未来にしたいかという理念を念頭に情報化社会の理想を追求していくことの必要性、情報教育の検証を単一的に行わず、国語や理科、数学と同じように、一般の人にもわかりやすい情報教育の理論の確立が必要であると述べられた（写真4）。

#### 4. まとめ

午前の分科会では活発な意見交換が行われました。午後の講演会でも多くの質問があり、予定し

た時間が伸びるほどの熱を帯びた講演会でした。

新しい課題と人材育成の分科会の発表と午後の講演会は、北海道大学会場、金川中学校会場を結んだ三元中継で実施されました。パワーポイントの使用もスムーズにゆき、今後、参加者の経済的な軽減と地理的な問題を解消するものとして、JADIEの全国大会の運営方法として定着してゆくことでしょう。

#### 謝辞

本大会開催に際して、文部科学省、経済産業省、総務省、鳥取県、鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、鳥根県教育委員会、岡山県教育委員会、広島県教育委員会、山口県教育委員会、鳥取大学のご後援と、多くの団体や協賛企業のご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。また、遠隔教育を行うにあたり、NTT西日本鳥取支店のご協力をいただき、エヌ・ティ・ティ アイティ株式会社製の製品meetingplazaを提供していただきました。お礼申し上げます。

日本教育開発協議会や第2回全国大会の講演論文集をお求め等の問い合わせは、下記のところにお願いいたします。

〒160-0012 東京都新宿区南元町23番地  
公立共済四谷ビル5階  
（財）科学技術教育協会内  
日本教育開発協議会 事務局  
e-mail info@fest.or.jp  
Tel 03-5367-9511 Fax 03-3357-2727